

# 2021年度 近隣地区卒団記念交流大会 競技運営規則

北本市スポーツ少年団野球部会  
(北本市少年野球連盟)

## 〔大会規則〕

- 1 正式な試合回数は、7回とする。
- 2 一試合の試合時間は1時間30分とし、これを超えて新しいイニングに入ることはできない。
- 3 時間内の延長戦は9回までとする。この場合、1人の投手の1日の投球回数制限は適用しない。
- 4 試合は、1時間30分を過ぎても同点の場合、最後に出場していた選手9名の抽選により、勝敗を決定する。
- 5 暗黒、降雨その他球審によって打ち切りを命じられた場合(コールドゲーム)は、5回(4回1/2)終了で成立する。同点の場合は抽選とし、それ以前については再試合とする。
- 6 得点差のコールドゲームは、3回以降(2回1/2)12点以上、5回(4回1/2)終了時以降7点以上とする。
- 7 1人の投手の1日の投球回数は、21アウトとする。(21アウト目のダブルプレー、トリプルプレーは1アウトとする。)
- 8 決勝戦の特例
  - ① 得点差のコールドゲームは適用しない。
  - ② 7回を終了、又は、1時間30分(延長戦を含む)を過ぎても同点の場合は、特別延長戦を最長1回のみ行い勝敗を決するが、なお、同点の場合は、最後に出場していた選手9名の抽選により決する。
  - ③ 特別延長戦は、次の方法で行う。
    - (ア) 特別延長戦(タイブレーク)は継続打順により1イニングを行い得点の多いチームを勝者とする。
    - (イ) 特別延長戦は、代打、代走及び守備交代を認める。
    - (ウ) 特別延長戦は、1人の投手の1日の投球回数制限は適用しない。
- 9 打者、走者、守備時の手袋及びリストバンドの使用は認める。但し投手は手袋及びリストバンド(サポーターなど)を使用することは禁止する。
- 10 捕手は、ヘルメット、マスク(スロートガード付)、プロテクター、レガース及びファールカップを着用すること。  
※ 控え捕手も投手の投球を受ける時は、全ての防具を着用すること。
- 11 ヘルメットは、公認(JSBB)の両耳付きとし、打者、走者及びランナーコーチ、ボールボーイも着用すること。
- 12 使用球は公認軟式J号とし、主催者側で用意する。
- 13 ロージンバッグは、各チームで用意すること。
- 14 金属バットは、公認(JSBB)されたものを使用すること。
- 15 シューズは、金属製スパイクの使用を禁止する。
- 16 **第一試合の出場チームは、試合開始予定時刻30分から1時間前の間に、会場に到着すること。  
1時間以上前に会場へ入ることは許可しない。**
- 17 **第二試合以降の出場チームは運営側からの連絡を待ってから会場へ到着すること。  
連絡前に会場へ到着した場合には駐車場内での待機とし、大会会場への立入りを禁止とする。**
- 18 **試合終了後は速やかに球場から退出することとする。**
- 19 大会当日の開会式は、行わない。開会宣言のみ実施
- 20 ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
- 21 ベンチ入場者は、登録した選手20名以内と、指導者(監督、コーチ、スコアラー)4名以内  
**感染予防から父母会より2名以内のベンチ入りを必須とする。(共有のヘルメット、バット、キャッチャー道具などの消毒)  
ベンチ内では全員がマスクを着用する。(攻守時の選手のマスク着用は不要)**

# 2021年度 近隣地区卒団記念交流大会 競技運営規則

北本市スポーツ少年団野球部会  
(北本市少年野球連盟)

- 22 ベンチ入り指導者は、選手と統一されたユニフォーム（帽子、ストッキングを含む）とする。  
サングラスの使用は認める。但し目が見えないようなミラーグラス等は認めない。  
※ スコアラーは、帽子のみでもよいこととする。
- 23 第一試合の各チームは、試合開始予定時刻30分前に、大会本部にメンバー表（3部）を提出し、審判員立会いのもと攻守を決定しておくこと。
- 24 **第二試合以降のチームは球場へ到着後、大会本部にメンバー表（3部）を提出する。**  
攻守決定については審判員の立ち合いのもと決定とする。
- 25 試合開始予定時刻前であっても、次の試合を開始することがある。
- 26 **会場内での練習は各面、試合予定チームのみでの練習とする。次試合の練習会場は設置しない。**
- 27 第一試合開始予定時刻を過ぎても、会場に現れないチームは棄権したものとす。
- 28 シートノックは5分間とする。ただし、当日2試合目の場合は、シートノックなしとする。
- 29 試合中のファールボールは、落下地点側ベンチで処理する。
- 30 塁間は23mとし、投手板と本塁間は16mとする。
- 31 ピッチャーズプレート中心を基点として、本塁から両翼70mの位置を結んだライン上にホームランネットを設ける。ただし、グラウンドの状況に合わせた位置に、ホームランネットを設ける場合がある。
- 32 **塁審は、組み合わせ表のとおりとし、各チーム1名又は2名従事すること。組合せの若い番号を2塁審判もう一方が1・3塁審判を基本とする。（各市町の審判講習会受講者に限る）**
- 33 選手、指導者及び応援席の父母等は、球場内外を問わずマナーに留意し、品位を損なうような行動をとらないこと。**応援については最低限度の人数として、声を出して応援禁止 拍手のみとする。**
- 34 各チームの指導者は、今大会開催につき決められた事項を、チーム全員に徹底すること。

## 〔審判上の注意事項〕

- 1 試合は、スピーディに進め、遅延行為とならないように充分注意すること。
- 2 攻守交代を迅速に行うために、選手は走って守備位置を往復すること。
- 3 監督は守備中にタイムを取った場合、投手のところ（マウンド）へ行き指示することができる。
- 4 プレーの判定に対する抗議権は、当該プレーヤー又は、監督のいずれか1名とする。
- 5 一試合のタイム取得回数は、攻撃・守備及び監督で各3回合計9回を限度とする。（攻撃の場合は、選手を呼んで指示した時とする。）
- 6 攻撃側または守備側のタイム中に相手側が選手に指示を与えた場合もタイムの取得回数となる。
- 7 投手の投球練習は、先発時と交代時は7球とし、2回目以降は3球とする。
- 8 守備側からの要求で試合が停止された場合、投手は投球練習をしてはならない。
- 9 野球ルールの解釈決定は各審判員が行うが、事態が紛糾したときは、速やかに4氏が集まり協議の上球審が最終判断を下す。
- 10 基本的なルールの解釈は、公認野球規則による。